アジアから学ぶ 中国ビジネス

文・写真：須賀努〜コラムニスト、アジアンウオッチャー。寺子屋チャイナ主宰 www.yyisland.com.yy/terakoyachina

撮影：佐渡多真子

香港にあるドラム式洗濯機

第７回

日本企業はクリエイティブではない

香港で長年、日本企業の総代理店をやっている香港人オーナーの話を聞く機会があった。彼は２代目であり、父親の代から日本企業とは並々ならぬ付き合いをしてきており、日本企業のやり方を熟知している人物で話は本当に面白かった。

「例えばね、炊飯器。日本人はどんどん高度な炊飯器を開発するでしょう。でもね、我々香港人は炊飯器で炊飯だけ出来ても面白くないと思うんだよ」。実際彼は炊飯器でケーキを焼くことを思い付き、日本企業に提案したが、「炊飯器はご飯を作るもの」と一蹴されたという。そこで自ら毎日何度も小麦の量を調節し、美味しいケーキを作るレシピを開発、再度企画を持ち込んで採用されたらしい。機能性が高いばかりでなく、楽しいことも重要な要素だと思うのだが。

●●●

日本企業に香港人の欲しい物、必要としている物を要請してもなかなか受け入れてもらえないという話をよく聞く。我が家が駐在していた90年代、日本でドラム式洗濯機と言えばコインランドリーぐらいのもので、家庭で使うものではなかった。だが香港では家が狭い上に湿度が非常に高いので、洗濯機はヨーロッパ、アメリカメーカーのドラム式が以前より多く使われている。香港の事情を考えれば、ドラム式を投入すべきだが、日本企業が香港に持ち込んだのは6〜7年前からだとか。それは日本でお年寄りの負担を軽くするためにドラム式が良いと言われ、売れ筋となったからであり、現地の事情など考えていないかのようだった。

●●●

ベトナム人の友人が以前「ベトナムに来るならコードレスアイロンを買ってきてくれ」というので、220ボルトの電圧のコードの無いアイロンを探しに行ったが、日本国内にはなく、香港市場でもほとんど見付からなかった。「日本で買ってこんなに素晴らしい物はないと思ったのに」というベトナム人に慰める言葉もなかった。

日本企業に要請しても未だに導入されない物もあるという。「ふとん乾燥機、これは日本で使って見て本当に便利だと思ったが、香港には売っていない」と香港人がこぼす。高温多湿、布団を干す場所もない香港の住宅事情を考えれば、必需品として必ず売れると思うのだが、何故日本企業は売り出さないのだろうか。一体何が障害なのか、恐らくは社内事情なのだろう。

●●●

香港に住む日本人からは「ズボンプレッサー」という声もあった。何故このように現地の人々の声が反映されないのだろう。マーケッティングをやっていない、とは思えないので、その手法に問題があるのではないだろうか。少なくとも現地の代理店の意見をもう少し反映出来れば、韓国製品ではなく、品質の良い日本製品を買う人はかなりいると思うのだが。

●●●

冒頭の香港人オーナーがバッサリ。「日本企業は品質管理には優れているが、決してクリエイティブではない」と。それを聞いた日本の大学生が彼に「そんな企業とずっと付き合っていてあなたの会社の将来は大丈夫ですか」と質問したから、彼も苦笑する以外、回答のしようもなかった。実に笑えない現実がここにある。

毎週、本誌がお手元まで確実に届く、定期購読（有料 / 1 年間・360 元〜）をお勧めします。

ホームページからお申し込みください

小社直送にて購読をご希望の方は、
TEL：+86-755-8351-6250 または
E-mail：pub-manager@kanan.cn
（発行局宛）へ。クーリエ便にて毎月配送いたします。
http://www.kanan.cn/upimg/youliao.pdf

【日系企業の文化・習慣を学びたい中国人社員にも人気です】

HKM

❖すが・つとむ／東京外国語大学中国科卒。金融機関在職中に、上海留学、台湾２年、香港９年、北京５年の駐在経験。現在、中国を中心に東南アジアを広くカバーした執筆活動に取り組むほか、進出企業向けアドバイスを行う。E-mail：sugatsutomu@nifty.com

124_wonder.indd 41 2013-8-23 16:25:55